

# 乾乳期の管理について

昨今の飼料等の価格高騰下では、飼養管理の見直しを行い、経営ロスを防ぐことが大切です。経営ロスの要因の一つに、周産期疾病の発生による乳量の低下が考えられます。周産期疾病の予防に向けた「乾乳管理のポイント」についてご紹介します。

## 1 乾乳前期…泌乳期に向け食べ込める状態をつくる時期

- ・嗜好性の良い粗飼料を飽食させ、乾物摂取量を低下させないように注意しましょう。
- ・太りやすい時期のため、エネルギー過剰に注意しましょう。



分娩前の過肥牛（BCS4.00）



分娩後の削瘦牛（BCS2.50）

分娩前に過肥だった牛は、分娩後の食べ込みが不十分で、急激に痩せます。

**周産期疾病になりやすいため要注意!**

## 2 乾乳後期…胎児が急激に成長し、分娩に向け採食量が低下する時期

- ・粗飼料は低水分（60%以下）のサイレージ・乾草を給与し、乾物摂取量を確保しましょう。
- ・乾物摂取量を低下させないように、飼養環境（適切な飼養密度、新鮮な水の給与等）に注意しましょう。
- ・配合飼料を増給し、泌乳期の高栄養な給与飼料に適応できるルーメンを作りましょう。

## 3 分娩直後

- ・牛群検定等のデータを確認し、分娩後の健康状態を把握しましょう。
- ・乳中脂肪酸組成（デノボFA、プレフォームFA）から、分娩前後の乾物摂取量等を把握することが可能です。ルーメンの状況や牛の健康状態について推測することが出来ます（図1）。

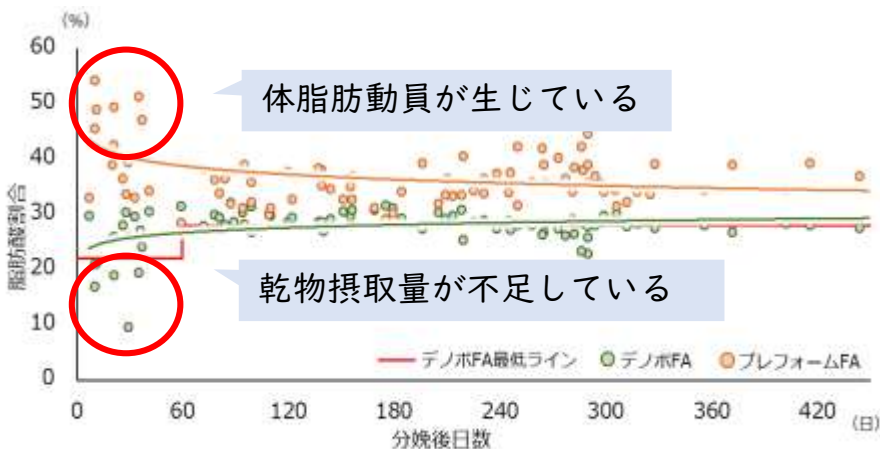


図1 過肥牛の分娩後の乳中脂肪酸組成（例）

● デノボFA

乾物摂取量が十分だと高まります。

● プレフォームFA

乾物摂取量が低下し、エネルギーが不足すると高まります。



乳中脂肪酸組成の見方は、普及センターHPでも公開しています。

乾乳期は、①太らせない、②乾物摂取量を低下させないことが大切です。

## 4 乾乳期の飼養管理事例紹介

### その1 新鮮な水の給与

定期的にウォーターカップを洗浄し、新鮮な水を給与しています。



清潔なウォーターカップ

冬場の水槽凍結防止に向けて、凍結防止帯を活用しています。



凍結防止帯の活用

常に新鮮な水を飲めるようにすることが、乾物摂取量の確保につながります

### その2 食い込みアップ

乾乳牛は過密にせず、粗飼料を飽食させています。



適正な飼養密度

粗飼料の食い込みが良好だと、ルーメンが十分に張ります。



ルーメンの充足

良質な粗飼料を給与し、ルーメンを充足させましょう

### その3 農場の工夫

乾乳牛舎での脱臼が多かったことから、通路の溝きりを行いました。



牛舎内での事故が減少

乾乳舎の溝切り

乾乳前期は飼料用タンカルを飽食させ、体内にカルシウムを蓄積させています。



タンカルを容器に入れ、タイヤで固定

タンカルの給与

様々な工夫により乾乳管理を充実させましょう